

## 志手原のヤツサ踊りと田楽 (志手原)

やつさ踊りをたどつてみれば昔 源氏の御大将で九郎判官源義経が……志手原氏神八王子様に祈願を込めてと お旅の松に槍を立てかけ休憩いたす これが名高い槍立松よ…… (ヤツサ踊りの音頭より)

平氏と源氏が争っていたころのこと――。

力をもった平氏一族が「平家にあらずば人にあらず」と、自分たちに都合のよいようにふるまっております。

源氏の頭領である源頼朝は伊豆に流されていましたが、少しずつ力をたくわえ、ついに立ち上がったのです。頼朝のもとにはこの時を待っていた人たちがはせ参じ、関東の平氏を次々と打ち破っていきました。

それを聞いた弟の義経も奥州から駆けつけ、頼朝と合流したのです。「京の平氏を討て」という頼朝の指令を受け、義経たちは平氏を次々と打ち破り、都を手中に納めることができました。

都を追われた平氏は、兵庫の福原で兵力を立て直してい

ました。次の指令は、その平氏を討てというものでした。策を練った義経は二手に兵をわけることにし、一つは海岸ぞいに、もう一つは北方から山間をぬけて攻めることにしました。

義経は、山間をぬけて福原を目ざす方にまわりました。目立たぬように行軍し、高平を過ぎ志手原へと進んだ時、山すそに神社の森が見えました。志手原の氏神です。疲れが出てきた一行は、そこで一休みすることにしました。

お旅所には大きな松が二本生えていました。幹周りおよそ五メートル、高さ三十メートルをこえようかという松の木です。馬をおりた義経は槍をその松に立てかけ、境内に入り、床几に腰を下ろしました。

この神社には八王子権現がまつられていることを聞いた義経は、これからのぞむ戦の勝利を祈ることにしました。

この様子を見ていた里人は感激しました。みんなで炊き出しをし、にぎり飯を握って、一行に届けました。そして、お望みなら、戦勝を祈願して、里人の踊りを披露しましょうとお伝えしました。

境内に里の人々が集まってきました。

まず、田楽※を踊りはじめました。

トントン

ジャキジャキ

トントン

ジャキジャキ

太鼓とジャキジャキに

合わせて踊ります。

次に、音頭が始まりま

した。

アライイナ コライイナ

ヨイヨイ サツサ

みなが手をふり、脚をそろえてかけ声をかけます。

義経よしのぶはたいそう感激し、伊勢三郎に音頭を取るように申

され、三郎は喜んで引き受けました。里人はそれに合わせ

て踊りました。家来たちも次々と輪の中に入って踊り出

し、総踊りとなりました。

戦勝祈願をすませ、里人から元氣をもらった義経軍は、

意気も高く出立していきました。鴨越ひまぢこえをして、一の谷の

急な斜面をいっきに駆け下り、福原の平氏めがけて突進し

たのです。ふいを突かれた平氏はうるたえ、義経軍にけ散



らされてしまいました。

志手原の里人はこのことを伝え聞き、大喜びしました。

大きな松を見上げては、義経が槍やりを立てかけたことを思い

出し、その松を「槍立松」と呼ぶようになりました。そし

て、みなで踊った踊りの音頭に義経軍の活躍をおりこんだ

「ヤツサ踊り」を踊り続けています。

そこで義経家来に命じ 伊勢三郎が音頭をとりて

村の娘や若衆たちが 次から次へと

御家来衆も ヤツサ踊りを奉納いたし

武運長久を祈ったという

これが伝わるヤツサの踊り……

※田楽…志手原に伝わる民俗芸能で、三田市の無形民俗文化財に指定されている、袴を着けた六人の踊り手が、二人は締め太鼓、四人はジャキジャキと呼ばれるササラ（数十枚の小さな板を連ねた楽器）を使って、秋祭りで踊る。